

2026年

風光れ

人権のたより

通算第96号 10月 5日発行

三重県立津東高等学校

学園祭・修学旅行という大きなイベントもおわりました。もうすぐ二学期の中間テストも始まります。準備はできていますか？

○見えている姿は、ほんの一部～～アニメ『【推しの子】』と“消費”される人格～～
「嘘はとびきりの愛なんだよ。」（星野アイ）

この作品は、芸能界という光の世界を舞台にしながら、「見られる存在」の重さを描いています。アイドルは理想像を求められ、その理想が少しでも崩れると激しく非難されます。

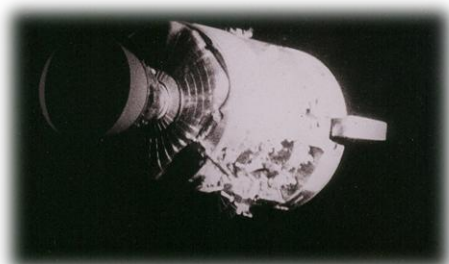
しかし、画面の向こうにも生活があり、迷いがあり、恐れがあります。私たちは、断片的な情報だけで誰かを判断してはいないでしょうか。特に SNS では一瞬の言葉が切り取られ、その人のすべてであるかのように拡散されます。

「嘘」は悪いことでしょうか。それとも、誰かを守るための鎧になることもあるのでしょうか。単純に善悪で割り切れない現実がそこにはあります。

人権とは、「その人を単純化しないこと」でもあります。好きになる自由はあります。しかし、理想像を押しつける自由や、失望を攻撃に変える自由までが含まれているわけではありません。

見えている姿だけで、その人のすべてを知ったつもりになっていないか。私たち自身の“見る責任”が問われているのではないのでしょうか。

○月には届かなかったけれど——アポロ 13 号とチームの連携



Damaged Apollo 13 Service Module

1970 年 4 月、アポロ 13 号の宇宙船は月へ向かう途中で酸素タンクが爆発し、乗組員の生命が危険にさらされました。映画やニュースではジェームズ・ラヴェルやジム・ラヴリン、フレッド・ヘイズの勇敢な行動が語られますが、成功の影には無数の地上スタッフの知恵と冷静な判断がありました（NASA『Apollo 13 Mission Report』）。

たとえば、宇宙船の CO₂濃度が危険域に達したとき、地上のエンジニアたちは限られた材料で即席の二酸化炭素除去装置を作り、手順を宇宙飛行士に指示しました。この場面を見れば、「ヒーローは宇宙にいる人だけではない」とわかります。高校の学園祭でも同じです。例えばクラス企画・ステージ発表の舞台で目立つ役を務める人だけがすごいのではなく、観客や会場設営、材料準備、後片付け等を担当する仲間の活躍で全体が輝くのです。

また、アポロ 13 号では心理的な支えも重要でした。地上管制の声かけや冷静な指示は、乗組員の恐怖や不安を和らげる役割を果たしました。つまり、アポロ 13 号の奇跡の生還の事実はチーム全員の協力で危機を乗り越えた物語なのです。

私たちも日常で「表に出る人ばかりがすごい」と考えがちですが、支える人の努力に目を向けることで、より公平で思いやりのある評価ができます。アポロ 13 号は月に着陸できませんでしたが、人類の知恵と協力の価値を、私たちに教えてくれるのです。